臨床調査個人票

新規	更新

229 肺胞蛋白症

(自己免疫性又は先天性)

_ /		_=-	-40	шн
_ 7	行政	τ≠μ	E	Ales:
	1 1 1 1 2	K mi.	ши	/11駅

受給者番号			判定結果	認定	□ 不認定	
■ 基本情報						
姓 (かな)			名 (かな)			
姓 (漢字)			名(漢字)			
郵便番号						
住所						
生年月日	西暦	年	月		日 *以降、数字は右詰めで記入	
性別	□ 1. 男	□ 1. 男 □ 2. 女				
出生市区町村						
出生時氏名	姓 (かな)			名 (かな)		
(変更のある場合)	姓 (漢字)			名(漢字)		
	□ 1. あり		□ 2.なし		□ 3. 不明	
	発症者続柄					
	□ 1.父	<u> </u>		□ 3.子	□ 4. 同胞(男性)	
	□ 5. 同胞	□ 5. 同胞(女性) □ 6. 祖父(父方) □ 7. 祖母(父方)				
家族歴	□ 8.祖父	□ 8. 祖父(母方) □ 9. 祖母(母方) □ 10. いとこ				
	□ 11. その	□ 11. その他 *11 を選択の場合、以下に記入				
	続柄					
発症年月	西暦	西暦				

社会保障				
介護認定	□ 1. 要介護	2. 要支持	爱	3. なし
要介護度	□ 1 □ 2	3	<u> </u>	<u> </u>
生活状況				
移動の程度	□ 1.歩き回るのに問題□ 3.寝たきりである	質はない	□ 2.いくらか問題	動がある
身の回りの管理	□ 1. 洗面や着替えに同□ 3. 自分でできない	問題はない	□ 2.いくらか問題	動がある
ふだんの活動	□ 1. 問題はない□ 3. 行うことができた	\$\\	□ 2.いくらか問題	 がある
痛み/不快感	□ 1.ない	□ 2. 中程原	きある 🗌 3	3. ひどい
不安/ふさぎ込み	□ 1. 問題はない□ 3. ひどく不安あるい	ハはふさぎ込んでい	□ 2. 中程度	
■ 診断基準に関する ³ A. 主要所見	事項			
以下の1~5の症状を	認める	□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明
□ 1. 労作時呼吸	困難 2. 咳	□ 3. 喀痰	□ 4. 体重減少	□ 5. 発熱
労作時呼吸困難があ	っる場合 mMRC	☐ 1. mMRC=0 ☐ 4. mMRC=3	 2. mMRC=1 5. mMRC=4	☐ 3. mMRC=2
喫煙歴	□ 1. 現喫煙者 □] 2. 既喫煙者	□ 3. 非喫煙者	□ 4. 不明
粉じん吸入歴	□ 1. 明らかな粉じん♥□ 3. 不明	暴露歴あり	□ 2.明らかな粉じ	ん曝露歴なし
40 CIVIXI VIE	ありの場合 内容			

B. 検査所見 *小数点も1文字として記入する

1. 血液・生化学的検査所見(過去1年の測定結果を記入)				
血清 KL-(6	U/mL		
* * * *	ファクタント ン-A(SP-A)	ng/ml		
	·ファクタント ン-D (SP-D)	ng/mL		
LDH		IU/L		
		μg/mL	あるいは	倍
抗 GM-CS	F 抗体	□ 陽性 □ 陰性	:	
		測定年 西暦 西暦		年
2. 画像検査	所見(過去1年	平の検査結果を記載)		
高分解能	ECT (HRCT) に	て、以下の所見を認める(複数)	選択可)	
	□ 1. すりカ	ブラス様陰影、通常両側性 [2. 小葉内間質腸	門厚像および小葉間隔壁肥厚像
\ 	3. クレー	-ジーペービングパターン(craz	zy paving patter	n):所見1と2の重なり合い
主要所見	4. コンソ	リデーション (consolidation)		
	□ 5. 地図状	分布 (geographic distributio	on)	
	□ 6. 胸膜直	[下に陰影を認めない(subpleur	ral sparing)	
その他 の所見	□ 1. 牽引性	三気管支拡張像 2.	.蜂巣肺	□ 3. 囊胞
3. 生理学的		F以内の値を記入)		
身長		cm	体重	kg
VC		L	%VC	%
FVC		L	%FVC	%
FEV ₁		L	$\% \mathrm{FEV}_1$	%
DLco		mL/min/mmHg	%DLco	%
DLco/VA		mL/min/mmHg/L	%DLco/VA	%
PaO ₂		Torr	PaCO ₂	Torr
	内気、仰臥位 ((原則) 酸素吸入	*酸素吸入の 場合	L/分

4. 病理・細胞学的所見(左右肺に肺病変をきたし	た症例で以下該当する項目に☑を記入する)(新規)				
□ a. 気管支肺胞洗浄 (BAL) 液で白濁の外観を呈し、放置すると沈殿する。 光顕で、パパニコロー染色でライトグリーンに染まる顆粒状の無構造物質の沈着と、					
メイギムザ染色等で泡沫上マクロファージ					
□ b. 病理組織で以下のような肺胞蛋白症を支持					
(1) 末梢気腔内に 0.2 microns 大の弱好酸性 数十 microns 大の好酸性顆粒状物質が混	細顆粒状物質が充満する。細顆粒状物質に 生する。数 microns 大の lipid clefts が混在する。				
(2) 末梢気腔内の細顆粒状物質は PAS 染色で	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
(3) 末梢気腔内の細顆粒状物質は免疫染色で PAP に伴うことがある所見	Surfactant apoprotein A(SP-A)に陽性所見を示す。				
(4) 末梢気腔内に大型泡沫細胞が集積する。	細胞質の崩壊過程を示す泡沫細胞を含む。				
(5) 肺胞領域の間質にリンパ球系細胞浸潤を					
(6) 間質性線維化病変が存在することがある。 以下の所見を認めない					
(全て認めない場合に 1. 該当を選択する)	□ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明				
□ (1)腫瘍性病変	□ (2)肉芽腫性病変				
□ (3)好中球あるいは好酸球の浸潤	□ (4) 壊死病変				
C. 鑑別診断 (新規)					
以下の疾患を鑑別し、全て除外できる。 除外できた疾患には ☑ を記入する。	□ 1. 全て除外可 □ 2. 除外不可 □ 3. 不明				
□ ニューモシスチス肺炎 □ リポイト	T肺炎				
□ 急性間質性肺炎 □ 薬剤性肺炎	□ 肺胞出血 □ 細気管支肺胞上皮癌				
□ 器質化肺炎 □ サルコイドーシ	ス □ 放射線肺炎 □ 過敏性肺炎				
□ 肺水腫 □ 吸引性崩	5炎 細菌性肺炎				
<診断のカテゴリー>					
Bの 2. の画像所見で PAP を支持する所見を認め、 Bの 4. の a または b を満たす □ 1. 該当 □ 2. 非該当					
<pap の分類診断="">(「診断のカテゴリー」の条件を満たした症例で該当する項目に☑を記入する)</pap>					
(認定対象は自己免疫性 PAP と先天性 PAP)					
自己免疫性 PAP(抗 GM-CSF 抗体陽性)					
□ 特発性 PAP(抗 GM-CSF 抗体を測定していない場合かつ原因不明)					
□ 続発性 PAP(補助対象外) □ 先天性 P	AP(遺伝性 PAP を含む)				

症状の概要、経過、特記すべき事項など *250 文字以内かつ7行以内							
■ 発症と経過							
確定診断年月	西暦		年	月			
確定診断施設名							
過去1年の状態	□ 1. 増悪(重症度 1 度以上増悪) □ 2. 不変(重症度不変) □ 3. 軽快(重症度 1 度以上軽快)						
■ 過去1年間の治療	寮歴						
在宅酸素療法	□ あり		□なし				
	□ あり		□なし		□ 不明		
全肺洗浄	実施月			3	☐ 4	<u>5</u>	☐ 6
		7	8	9	10	11	12
	□ あり	T	口なし		□ 不明		
気管支鏡による 洗浄	実施月	<u> </u>	_ 2	3	☐ 4	<u> </u>	<u> </u>
			8	9	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
	□ あり		□なし		□ 不明		
GM-CSF 吸入療法 (保険適応外)	実施月	1	_ 2	3	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
		<u> </u>	<u> </u>	9	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>

■ 重症度分類(管理区分重症度 III 以上を対象とする) 【PAP 重症度】

重症度 (DSS)	F) 症状 PaO ₂					
_ 1	無し $PaO_2 \ge 70Torr$					
_ 2	有り	$PaO_2 \ge 70Torr$				
<u></u> 3	不問	$70 Torr > PaO_2 \ge 60 Torr$				
<u> </u>	不問	$60 Torr > PaO_2 \ge 50 Torr$				
<u></u> 5	不問	50Torr > PaO ₂				
【難治例等】						
以下のいずれかり	こ該当する	□ 1. 該当 □ 2. 非該当 □ 3. 不明				
□ (1)明らかな	おければ	- (2) 反復、継続する感染症合併				
(3) CPAP の場	易合	□ (4)6分間歩行試験で、Sp0₂が90%未満を認める場合				
	、以下に記入					
感染症の内容						
【管理区分重症度	【】(難治例等の場	場合、PAP 重症度に 1 度を加えて管理区分重症度とする)				
☐ I	□ II □ IV □ VI					
■ 人工呼吸器に	関する事項(使	用者のみ記入)				
使用の有無						
開始時期	西暦					
離脱の見込み	1の見込み 🔲 1. あり 🔲 2. なし					
種類	□ 1. 気管切開孔を介した人工呼吸器					
1里块	□ 2. 鼻マスク又は顔マスクを介した人工呼吸器					
+ -	□ 1. 間欠的施	行 2. 夜間に継続的に施行				
施行状況	□ 3. 一日中施	行 4. 現在は未施行				

	食事	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
	車椅子とベッド間の移動	□ 自立	□ 軽度介助
	1191 6 2 119	□ 部分介助	□ 全介助
	整容	□ 自立	□ 部分介助/不可能
	トイレ動作	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
H-75,112,717	入浴	□ 自立	□ 部分介助/不可能
生活状況	歩行	□ 自立	□ 軽度介助
	941	□ 部分介助	□ 全介助
	階段昇降	□ 自立	□ 部分介助 □ 不能
	着替え	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
	排便コントロール	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
	排尿コントロール	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
医療機関名			
指定医番号			
医療機関所在地	1		
電話番号			*ハイフンを除き、左詰めで記入
医師の氏名			印
			※自筆または押印のこと
記載年月日	西暦	年月月	目
診断年月日	西暦	年	Image: section of the content of the

- ・病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、診断基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません。(ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。)
- ・治療開始後における重症度分類については、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近 6 か月間で最も悪い状態を記載してください。
- ・診断基準、重症度分類については、
- 「指定難病に係る診断基準及び重症度分類等について」(平成 26 年 11 月 12日健発 1112 第 1 号健康局長通知)を参照の上、ご記入ください。
- ・診断年月日欄には、本臨床調査個人票に記載された内容を診断した日を記載してください。
- ・審査のため、検査結果等について別途提出をお願いすることがあります。